

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	立川市ドリーム学園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月17日		～ 令和8年2月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和8年1月17日		～ 令和8年2月2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月17日		～ 令和8年2月2日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達相談を受けている児を対象としているため、児の発達の把握や保護者との関係づくりがしやすく、児が所属している集団環境へ巡回保育相談や5歳児相談で何うこともあることから、集団の状況もある程度理解している。	保育所等訪問支援事業のためだけではなく、日ごろからコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。	引き続き、児や保護者を中心としつつ、保育所等訪問支援事業の質の向上のため、発達相談の中で児や保護者の意向を聞き取り、それを集団の場でどう展開できるか園の特性も含めて考えていけるような強みを生かし、課題意識をもち取り組んでいく。
2	事業所内に、保育士、心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士がいるため、多角的な視点で対象児に必要な支援や助言を還元することができる。	対象児の特性に応じて、専門職の助言をもらう。	対象児のケースを検討する機会を増やしていき、経験を積んでいく。
3	心理士1名と保育士1名の計2名でチームを組んで、直接支援をする職員と観察する職員とに役割分担しながら事業にあたっている。	支援内容の打ち合わせを丁寧に行い、互いの意見を参考に支援につなげている。また、発達相談での児の担当心理士とも情報交換を行う中で、児に必要な支援をともに考えていける体制を大切にしている。	研修等を受けたり、事業所内の専門職のアドバイスを受ける等をして、客観的な視点により状況の整理を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業実施ケースが少ないため、支援方法のバリエーションが広がっていない。	経験値が少ないため、課題に気づいていないことも考えられる。	研修等を通して、視野を広げていくとともに、一人ひとりの児や保護者と丁寧に向き合いながら、課題改善や支援方法のバリエーションを広げていく。
2			
3			